

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2016年7月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

体験活動

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子どもを育てていく上で、体験活動が大事だと良く言われますがそれはなぜでしょうか。それは、人間は体験を通して成長するものだからです。そして、人間の成長にかかわる「体験」とは直接体験が中心となります。これは人類の歴史を振り返ってみればわかることで、最初から存在したのは、直接体験だけでした。人類の進歩の過程で、間接体験は途中から加わってきたものです。

しかしながら現代の子どもたちの状況は、直接体験が減少の一途を辿り、生活の大部分を間接体験が占める状況になっています。ある調査によると、小学生が一週間にテレビを見る時間は20時間を超えと言われ、一年間では、1000時間を超えます。小学生の授業時数は一番多い学年で、年間980時数(735時間)ですから、授業よりテレビを見ている時間の方が多いということになります。もっとも授業もテレビ視聴と同様に間接体験の範疇に入りますし、さらに塾やゲームの時間が加わりますから、今の子どもの生活に直接体験の入る余地はほとんどないと言っても過言ではありません。

もちろんすべてを直接体験できるわけではありませんし、間接体験も必要なものなので、この2つが、バランス良く車の車輪のようになって発達していくことが理想です。

このように、間接体験が突出した生活になっている子どもたちの現状は、状況の変化に対応する力や耐性の不足、人間関係形成力の不足、学習や勤労意欲の低下などが顕著になっており、いわゆる「生きる力」の弱さが課題と言われるようになっていきます。

子どもたちに「生きる力」を育んでいくためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要となります。子どもたちは具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら、「なぜ、どうして」と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然のあり方を学んでいきます。そして、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通して、自らを高め、よりよい生活を作り出していくことが出来るようになるのです。

実際に、いろいろな調査では、体験活動の多い子どもほど道徳観や正義感が充実している。また、他者への思いやりや、積極性などが高く、自己肯定感も高くなっているという結果が出ています。子どもに基本的な生活習慣や自立的学習行動を身につけさせれば、厳しく躾けることより自然体験をさせた方がよいという説も説得力があります。

体験(特に直接体験)は子どもたちの成長の糧であり、「生きる力」を育む基礎となっているということが出来るでしょう。

五感が研ぎ澄まされ、心揺さぶる感動を体験できる「体験活動」を通し、子ども自身が心から楽しい、嬉しい、面白いといった経験が出来るよう手助けしていくことが、子育てにはとても重要になっていると思います。





おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『子どもはみんな天才だ!』ひすい ことろう/著 (PHP)

ときに笑えて、ときに泣ける、そんな子どもの「名言」「珍言」を集めました! 大人には考えつかないような、子どもならではの自由な発想や、純粋な気持ちから出た言葉に触れることでクスリと笑えて心が軽くなる一冊です。

著者の子どもたちの名言エピソードを集めた、ひすい家コラムも必見。

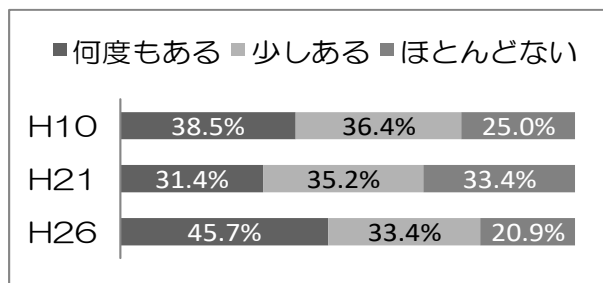


データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

自然体験と自己肯定感

●野鳥を見たり、鳴く声を聞いたことがある

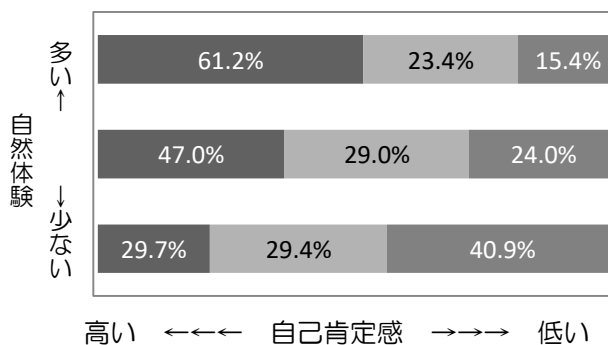


左の表は、自然体験の実施状況の推移をまとめたものです。平成10年度の調査結果と比べると、平成26年度のほうがより野鳥を見たり鳴く声を聞いたりしているという結果になりました。このほかにも「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」でも増加傾向が見られました。一方で、一度でも「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」がある人は平成10年度以降すべて5割以下となっています。

国立青少年教育振興機構「『青少年の体験活動等に関する実態調査』(平成26年度調査)結果の概要」

自然体験を行うことで、どういったものが育まれるでしょうか? 右の表は、自然体験の頻度と自己肯定感の関係性をあらわしたものです。自然体験を多くおこなっている子どもは傾向として、「今の自分が好き」「自分には、自分らしさがある」などといった自己肯定感が高いという結果でした。また、同様に自然を相手に様々な活動に一生懸命に取り組むことで、だんだんと自分自身に自信を持つことができるのかもしれない。

●自己肯定感



国立青少年教育振興機構「『青少年の体験活動等に関する実態調査』(平成26年度調査)結果の概要」

のしろの宝をマナブゥ!

夏休みの自由研究に!

教育委員会では能代の自然を実際に体験しながら学ぶ「親子でのしろの宝さがし」を行っております。専用ノートでも、スマートフォンのアプリでも簡単に参加できます。夏休みを利用してぜひ親子で挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。



詳細は能代市HPへ!

<http://www.city.noshiro.akita.jp/c.html?seq=10806>



☆ 通信に関するご意見や感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

乳児は 肌を はなすな 幼児は 手を はなすな 少年は 目を はなすな 青年は 心を はなすな

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2016年12月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

がまん

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

公共の場では静かにする、欲しいものがあったてもすぐ「買って」と言わないなど、生活の中で、子どもに我慢して欲しい場面はたくさんあります。でも、「ダメ」と叱るだけでは我慢する力は育ちません。我慢できないと言うことは「ああしたい、こうしたい」という自分の考えが持てて、それを表現できている姿です。主体性が育ってきているわけです。親御さんは困ることが多いかもしれませんが、健やかに成長している証拠とも言えます。子育てにおいて、大切なのは、「したい、見たい、いきたい、食べたい、・・・」といった主体性をしっかりと伸ばすことで、その裏側に自己抑制できる力（我慢する力）がくっついて育っていくことが理想的です。それでは、親はどのようにかかわるのが望ましいのでしょうか？

① ちょっとの我慢の積み重ね

子どもはスパイラルに成長していきます。少しずつ少しずつの成長です。いきなり難しいことはさせずちょっとだけの経験の積み重ねが肝要です。例えばスーパーで買ったばかりのお菓子を「すぐ食べたい」と言い出したときに、「うちに帰るまで我慢しなさい」と怒っても、なかなか難しいものですが、「すぐ近くの公園で食べましょう」という具合に、子どもに見通しがつく範囲で少しだけ我慢させましょう。



② 我慢したことをほめる

友達と一緒に遊んでいると、言い争いになったり、ケンカになったりしますが、これを通じて友達とのかかわり方を学んでいます。友達とのトラブルの時に、少し我慢できたときには「がまんしたんだね」と認めてあげましょう。我慢できた自分を誇らしく思うことができるはずです。子どもに我慢することを教え、子どもが我慢したら「よく頑張ったね」とほめてあげることで我慢中枢が刺激され、発達します。

③ 子どもとのコミュニケーションを大事に

子どもが我慢できないことがあったら、子どもとたくさん話してみてください。例えば、子どもがお菓子やおもちゃを「買って、買って」と我慢できないとき、まずは「○○ちゃんはこれが欲しいんだね」と子どもの気持ちを受け入れましょう。そして、どうしてそれが欲しいのか、子どもに理由を聞いてください。親御さんが丁寧に聞いていけば、子どもも自分の気持ちを伝えられるものです。それを聞いてあげてから、なぜダメなのかを伝えていけば、子どもは我慢したい気持ちを抑えて、納得するでしょう。

大人でも自分がしたいことを我慢することは難しいものです。子どもたちは我慢の練習を積み重ねている最中です。すぐにできないのは当たり前です。「うちの子は我慢できない」と思うのではなく「我慢の練習をしているとき」と思っただけでいいのでしょうか。大人はいつでも「ダメ」「我慢しなさい」と言えます。この言葉で言うことをきかせるのは最後の手段に取っておきたいものです。

我慢強い子を育てるためには「親の対応」がとても大事になります。子どもだけが我慢するのではなく、我慢するためへの「導き方」などをしっかりと親が心得るのも大事です。親が言葉や態度で子どもに伝えることはとても大切なことなのですね。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



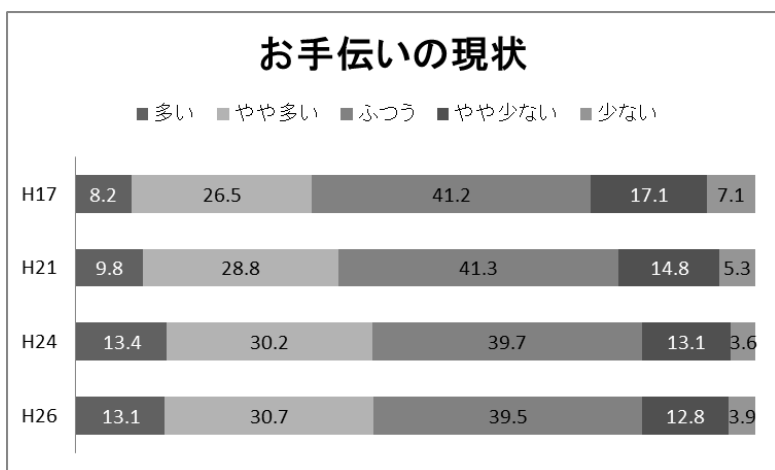
『大人はどうして働くの?』宮本恵里子／編（日経BP社）

どうして働かなくちゃいけないの?と子どもに聞かれたら、何て答えますか? さまざまな分野で活躍する7人が、「働くこと」についてそれぞれの考えを述べます。子ども向けのやさしい文章と大人向けの文章に分かれているので、親子で読める内容です。働く意味や価値について、家族で考えてみませんか。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとります。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

●お手伝い



左のグラフは、「家庭で日常的にお手伝いをしているか」というお手伝いの現状をグラフにしたものです。平成17年度から24年度にかけては「多い」「やや多い」が増加していますが、24年度以降には大きな変化が見られませんでした。

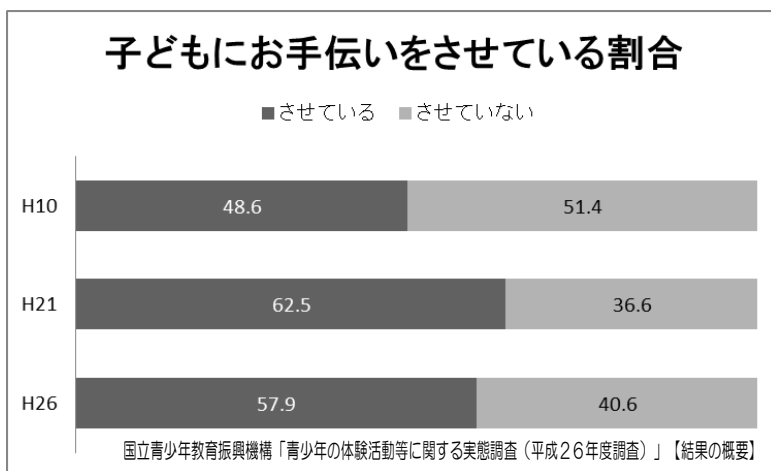
お手伝いの内容としては、「料理の手伝い」「家の掃除」「食器をそろえる」などが項目としてあげられ、そのうち「ペットの世話や植物の水やり」以外の全ての項目で増加傾向となりました。



右のグラフは、「子どもにお手伝いをさせている割合」をグラフにしたものです。平成10年度から21

年度にかけては大きく増加していますが、それ以降は緩やかに減少しています。

最初に楽しくお手伝いを行うことで、だんだんと「お手伝いが楽しい」という感覚が身についていきます。ぜひできるところからお手伝いをさせてみたらいかがでしょうか。



年末年始はぜひ家族の時間を!

煤払いや冬至、お正月など、年末年始には家庭で学べる行事がたくさんあります。

家族で年中行事を楽しみつつ、子ども達と一緒に日本の文化を学んでみてはいかがでしょうか。

よいお年をお迎えください、また、来年もどうぞよろしくお願いいたします。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

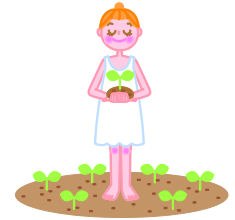
☆ 通信に関するご意見や感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2017年3月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

優しい心

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

お子さんが産まれると、親御さんは、いろいろと望むと思います。「素直に育って」「思いやりのある子に」「柔軟性のある子に」「人の気持ちが分かる子に」「人に迷惑をかけない子に」……。中でも「思いやりのある優しい子に育って欲しい」という「心」の成長を願う親御さんはとても多いようです。しかし、これがなかなか難しい。

どんなことでもそうですが、子どもたちはわからないこと、理解していないことなどたくさんあります。そもそも「優しさ」ということを知らない子どもにそれを求めても無理なのです。したがって、身近にいる大人（親及び家族）が、「優しい」を子どもに「教えてあげる」、「見せてあげる」、「してあげる」ように心がけることが不可欠です。「思いやり」の心を育てるためには、まず他の人から十分に「思いやりを受けた」という経験が基礎として必要なのです。

そのうえで、子どもが「優しい」行動をしたら、そのことを、言葉に出して褒め、「優しさ」ということを認識させていきます。

例えば、兄がお菓子を食べているとき、妹が「ちょうだい」と近寄ってきます。兄は「いやだ」といっても、妹はほしがります。ついに、兄は「しょうがないなあ」といって妹に分けてあげます。このとき「一人で食べようとしなくて妹に分けてあげて優しいお兄ちゃんだね」といってあげると、兄は満面の笑みです。分けてもらった妹も嬉しそうです。分けることは、親にとっては当然と思えることでも、改めて言葉に出して褒めることで二人は、それぞれに「優しさ」というものを学びます。

よく見ていると、子どもは日常生活の中でたくさんの「優しい」行動を取っているものです。例をあげれば、

- ・電車で席を譲る
- ・庭に咲いている花に水をあげる
- ・動物をかわいがる
- ・困っている友達に声をかける
- ・・・

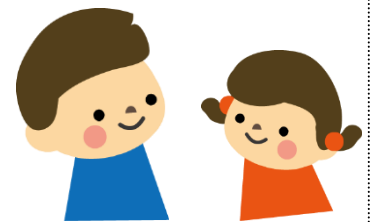
などたくさん見つけることができると思います。

その「優しい」行動を見たときは、思いっきり褒めてあげてください。子どもは誰かから褒められると「それはいいこと」なんだと気づくことができます。優しさも例外ではありません。具体的に褒めることで、その行動が強化されます。

大人にとって当たり前のこと、当然と思えることでも、子どもが「良いこと」「優しい行動」をした時は、できるだけ褒めるようにしていきたいものです。

「思いやり」を育むと言うことは、口で言って聞かせるものではなく、感じる気持ち（心）を育てることです。心を育てるには時間がかかるものです。長い目で見て焦らずに子どもと向き合い、ゆっくりと時間をかけて育むことが肝要です。

「時間は桑の葉を絹に変える」ということわざがあるように、貴重なものの育成には時間が必要だということでしょう。

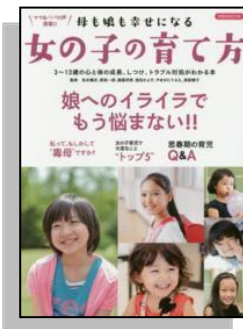


👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『母も娘も幸せになる 女の子の育て方』松永暢史ほか／監修（洋泉社）

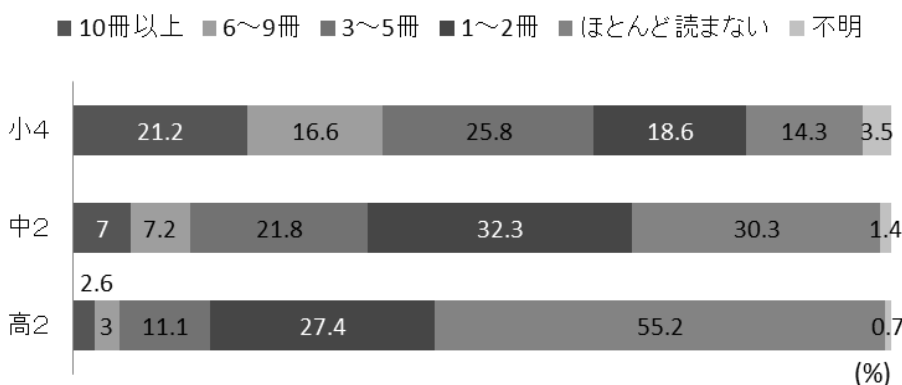
母親にとって娘は、育てやすいところもあるけれど、同性ゆえにぶつかることが多いもの。女の子ならではの人間関係の悩みや思春期を迎えた時の対応に専門家がアドバイスします。3～12歳の心と体の成長やしつけ、トラブル対処がよくわかる一冊です。



👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

1か月に読む本の冊数(学年別)



(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動に関する実態調査(平成26年度調査)」報告書より

今回は、学年別の読書のデータをとりあげました。小学4年生ではおよそ2割の児童が1か月に10冊以上本を読んでいる一方で、学年が上がるにつれ、1か月に読む本の冊数が少なくなっていることがわかります。特に、中学2年生ではおよそ3割、高校2年生では、半数以上の生徒が1か月に本をほとんど読んでいません。

これからの春休みに、毎日少しずつ本を読む時間をつくってみてはいかがでしょうか。

👍 ひとつこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとつことをご紹介します。



子育ては、普通の生活の10倍の苦労、100倍の楽しみがあるとされています。

100倍楽しむために、大事なことがあります。

・「お母さんはダイヤが大好き」この「ダイヤ」というのは、お母さんが話す言葉を指します。

① ダ ダメ ② イ いけません ③ ヤ やめなさい

親の立場ですぐこのような言葉を言うのではなく、子どもの目線に立って考えてみてください。

親をいやだと思っけていても子どもにとっては親が最大の教師です。

あるがままのその子を受け入れ、慈しみそれが子どもを愛することにつながります。それが目に見えなくてもとても大切なことです。

家族みんなで子育てを楽しんでください。

(初任者研修拠点校指導教員 笠井 範子 氏「もうすぐ一年生 掌中の珠、五人のお子さんへ」より)

新たな年度へ向けて

4月から新学期が始まります。進級、進学で新しい生活に向けて準備を始めているところだと思います。

雪がとけて春になりつつある季節を楽しみながら、新学期を待ちましょう。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

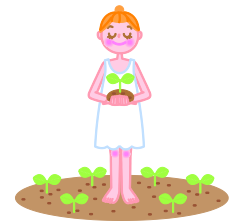
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2017年7月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

好きこそ・・・

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子どもは親がやって欲しいと思うことはなかなかやってくれず、どちらかというやっ
て欲しくないことをやる人が多いようです。

これをやって欲しい、あれをやって欲しいと思うならば、そのことを好きにさせることが、
繰り返し繰り返し言葉で言うよりは近道のようにです。子ども大人を問わず、人は、好きなも
のは大事にしますし、進んで取り組むものです。皆さんにもそれぞれに思いあたるふしがあ
るのではないのでしょうか。

もちろん私にもあります。子どもの頃、ご多分に漏れず、朝起きが苦手で、
親に注意されることがたびたびでした。しかし、こと、大好きな釣りに
出かけるとなると、どんなに早くても、一人でちゃんと起きたもの
でした。これが、勉強だったら・・・、いつもこうだったら・・・と
親は嘆いたものでした。



では、どうしたら、子どもは物事を好きになるのか。

なかなか難しい問題ですが、私は2通りあるのではないかと考えています。

1つ目は、親が好きになること。このことが子どもの行為に及ぼす影響はかなり高いと見
ています。

2つ目は、その行為や結果が、誰かを喜ばすものであること（誰かが喜んでくれること）
です。

私の場合は2つ目の方でした。私をかわいがってくれた祖父が、私が釣ってくる小魚をお
いしそうに食べてくれたのです。それが嬉しくて、また釣ってきてやろう・・・というわ
けで、どんどん釣りが好きになっていきました。

子どもに何か継続的に取り組んで欲しいことがあったら、可能であれば、まず親がそのこ
とに喜んで取り組むこと（まず、親が好きになること）です。親が楽しそうにやっているこ
とは、子どもにとっても興味と関心の的になるでしょう。そして、私もやってみたいな・・・
となれば。

さもなくば、その行為あるいは結果を喜んであげること。これはできそうですが・・・。

このどちらかが、必要なのではないかと考えています。

勉強が好き、運動が好き、読書が好き・・・、子どもは好きなことには
夢中になります。やれと言わなくても、進んでやるものです。

やって欲しいことを進んでやる子・・・嬉しい限りです。やがてそのこと
が職業となり、立派な業績を上げることに・・・例はたくさん見られます。

「好きこそものの上手・・・。」昔の人はうまいことを言ったものです。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『お弁当を作ったら』竹下 和男/著（共同通信社）

子どもが献立から買出し、調理や片付けまで自分でやり、親は手伝わない「お弁当の日」は食育の一環として始まりました。この本は、お弁当の日を題材とした短編集です。家庭の事情を抱えながらも、お弁当作りに奮闘し、成長していく子どもたちの様子が描かれています。子どもたちが作ったお弁当にも注目です！

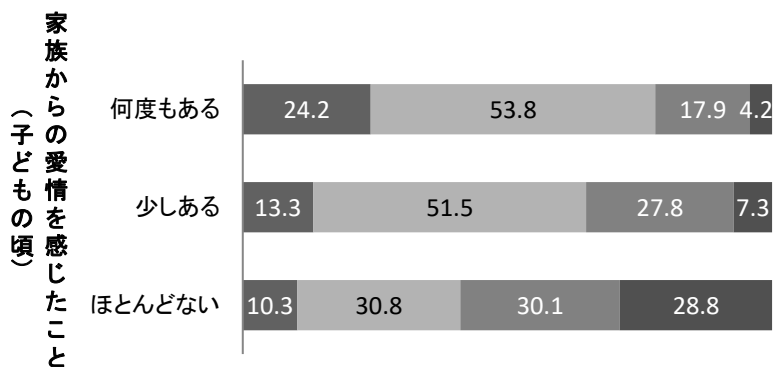


データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

ひどく落ち込んだ時でも、時間をおけば元気にふるまえる(現在)

■とてもあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」より

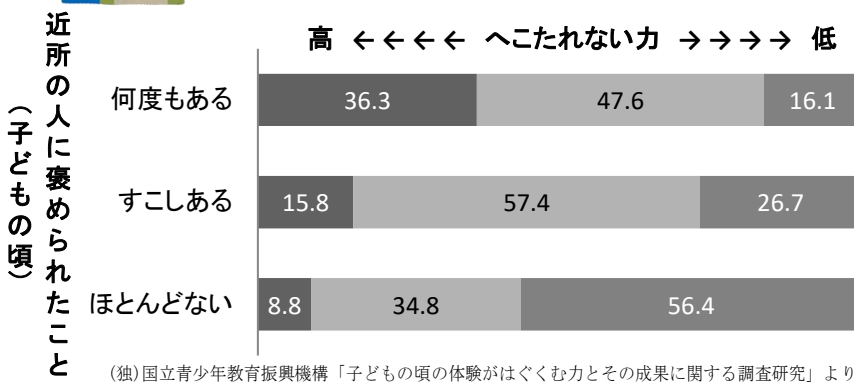
右のグラフは、子どもの頃の人間関係と社会を生き抜く資質・能力の関係です。

子どもの頃に近所の人に何度も褒められたことがある人は、現在、へこたれない力が高い傾向にあります。

子どもの頃に褒められる経験をする事で、自信をつけて、大人になってからもへこたれない力を持つようになるのではないのでしょうか。



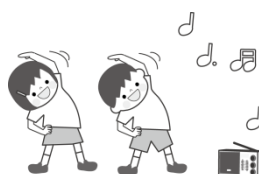
近所の人に褒められたこととへこたれない力の関係



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」より

早寝・早起き・朝ごはん！

いよいよ夏休みです。夏休みも早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、規則正しい生活をしましょう。また、普段学校に行っているときにはなかなかできないような体験活動をとおして、充実した夏休みを過ごしてください。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

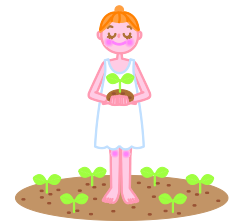
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2017年12月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

感性を磨く

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子育てをする親御さんの中には「心の優しい人間」になって欲しいという願いを持っている方が多いのではないのでしょうか。「心の優しい」人間に育つためには子どものうちに「人を信じる力」を育てることが必要です。人を信じる力というのは、感謝や尊敬にそのまま直結するものですが、感謝や尊敬の念は善や美を感じる力などとともに“感性”に包含されます。

そして、“感性”とは自分の身の回りに起きている出来事や日常生活の小さな事柄を様々な角度から観ることができ、自分の心で深く考え、反応し驚いたり感動したりしつつ「価値あるものや現象に気づく」敏感な心と考えられています。回りくどい言い方になってしまいましたが、つまり、「心の優しい人間」を育てるには、「感性を磨く」ことが必要だということになります。

日本人の価値観は、知性に対して高く、感性に対してはそれほど高くないという論調が多数ですが、私は、“感性”に対する評価をもっと上げていいのではないかと考えています。知識を増やして“知性”を高めることも大事ですが、その前に感覚に働きかける実体験を多くして“感性”を磨くことがより重要なのではないかと考えています。“知性”はその土台に“感性”があってこそ有用なものだと思います。“感性”無き“知性”は時に暴走します。

人の心や思いは目には見えませんが、しかし感性豊かな人は、人の心の動きや感情の流れを敏感に感じ取ることができると言われていています。それ故に、多様な考えを持ちつつ、相手のことを思いながら行動できる「優しい人間」として振る舞えるようになるということでしょう。

それでは、感性はどのようにして磨いたらよいのでしょうか。

感性が最も磨かれる時期は5～6歳までと言われていています。この時期に善なること、美しいこと、心地よいことなどをたくさん体験させることが不可欠なのだそうです。自然体験、文化・芸術体験、交流体験などを通じた感動体験を積むことが有効なのですが、現代においては、これらの体験は、大人が計画的に実施しなければ実現しません。

子どもたちの“感性”を磨くその要諦は大人にあるということになります。

まず、感性を育み、その土台の上に知性を積み上げていくという考え方がとても重要だと思います。知性は生涯に渡って磨くことができますが、感性を磨く時期はある意味限られているということを忘れてはなりません。

優れた知性は感性が制御することで真に有用になる。知性万能の感のある現代社会において、感性の重要性を今一度考えてもいいのではないのでしょうか。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『子どもを本好きにする10の秘訣』高濱正伸・平沼純／著（実務教育出版）

子どもが本に興味を持つ、ちょっとしたコツを教えます！図書館で10冊借りて選ばせる方法や、読み聞かせ、外遊びが好きな男の子も夢中になる本など、すぐに役立つ内容が盛りだくさんです。ブックリストも付いているので、本を選ぶ参考になります。



データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとります。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

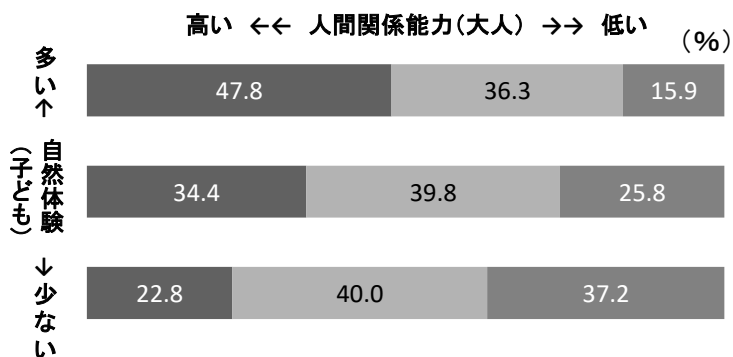


今回は、子どもの頃の体験活動の経験と大人になってからの資質・能力の関係性を取りあげました。

右のグラフは、子どもの頃の自然体験と大人になってからの人間関係能力の関係を表しています。

子どもの頃に山や川などで自然体験活動をした経験が多いほど、初めて会った人とでもすぐに話ができるような人間関係能力が高くなっており、子どもの頃の自然体験が少ない場合と比較して、人間関係能力の高さがおよそ2倍になっています。

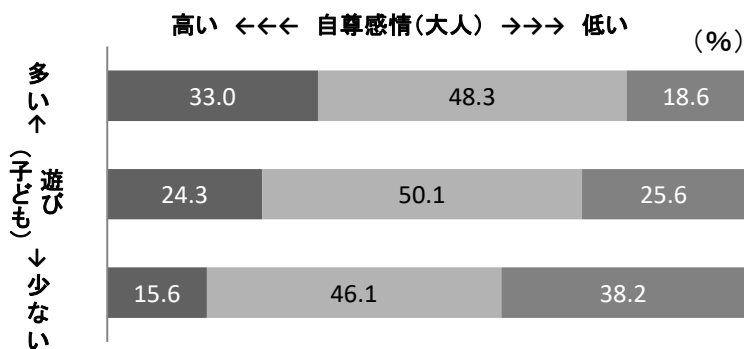
子どもの頃の自然体験と大人になってからの人間関係能力



国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（平成22年10月）



子どもの頃の友達との遊びと大人になってからの自尊感情



国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（平成22年10月）

左のグラフは、子どもの頃に友達と遊んだ経験と大人になってからの自尊感情の高さについての関係を表しています。

友達との遊びの項目については、ままごとやかくれんぼに加え、友達とのケンカや友達のケンカを注意したことなども項目に含まれています。

子どもの頃に友達と遊んだりケンカをしたりすることで、他人の大切さ・自分の大切さを知り、大人になってからの自尊感情の高さにつながっていると考えられます。

冬にしかできない体験を！

年末年始は、日本ならではの行事に加え、雪が降るこの季節だけにしか楽しめない雪合戦や雪だるま作りなどで、冬をより身近に感じるチャンスです。子どもたちにとって、貴重な体験活動のひとつとなると思います。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1
 TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2018年3月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

伝えたいこと

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

親は子どもに何を伝えるのか。これは子育てをしていく上で核となるものだと思います。人それぞれに思いがあると思いますし、伝えるべきことはたくさんあると思いますが、今回は「優しさ」と「決断力」について考えてみたいと思います。理由は大人として社会で生きていく上で、必要なもの、基本的なもののひとつだと考えているからです。

では、どのようにして伝えていったらよいのでしょうか？

○ 優しさ

優しさは感覚的なもので、結果が明確に見えるものではありません。人のために何かができる子（相手を大切に思う気持ちから生まれます）が優しさを持っている子どもと言えます。「優しさ」というものは自分（時に子どもの頃）が受けた優しさという体験の一粒一粒が自身の心の中に貯まり、やがてあふれ出すようにその人の優しい行為となって現れるものだと思います。優しさは教えられて覚えるものではなく、見て覚え、体験（優しくされて）して身についていくものと言えるでしょう。

行為に優しさがあれば人間関係は良好なものとなるでしょう、日々の人間関係が良好であることは、とてもいい財産であり人生を豊かにそして、幸せなものにすることでしょう。

親が「優しい」をたくさん見せてあげること、子どもが優しい行為をしたときに、ほめてあげ、それが優しさだと気づかせてあげることがとても重要なのです。

○ 決断力

決断力を身につけるには、実践が必要です。健全な判断力を持って決断できるようになるためには、体験が欠かせないということになります。子どもの頃から、自ら決める、決めたことには責任を持つという行為をどれだけたくさん体験するかにかかっていると言っても過言ではないと思います。周りの大人が決めて、それに従わせるのではなく、自ら決断する機会をどれだけ多く設定してやれるか（子どもの頃たくさん決断している子どもは大人になって大成しやすいと言われています）両親をはじめとした周りの大人の役割はとても大きいものです。

人生は決断の歴史。いかに正しく決断して生きていくか…「決断力」は生きていく上では欠くことのできないとても重要なものだと思います。

格言に「聞いたことは忘れ、見たことは覚え、体験（教えた）したことは分かる」というものがありますが、教えるという行為を通して、理解がより深まるという結論です。親は子どもにいろいろなことを教える（言葉であったり行為であったり、後ろ姿であったり…）ことで、自分の知識をより確かなものとしていることになります。子どもを育てながら自分も育てられているということになります。子育ては大変だと思ふことが多いと思いますが、少し目線を変えてみると、お互いが育ち合う、ウインウインの関係だと言ふことが見えてきて、ちょっと嬉しくなりませんか…。





おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『思春期の子が待っている親のひと言』大塚隆司／著（綜合法令出版）

話しかけても無視される、逆ギレされる…その言葉は子どもに通じていないのかもしれませんが。思春期の子どもとの接し方に悩んだ時、試してほしい声かけを掲載しています。ポイントは、「まずやってみる」こと。子どもとのコミュニケーションを見直すきっかけになる一冊です。



データでみる家庭教育

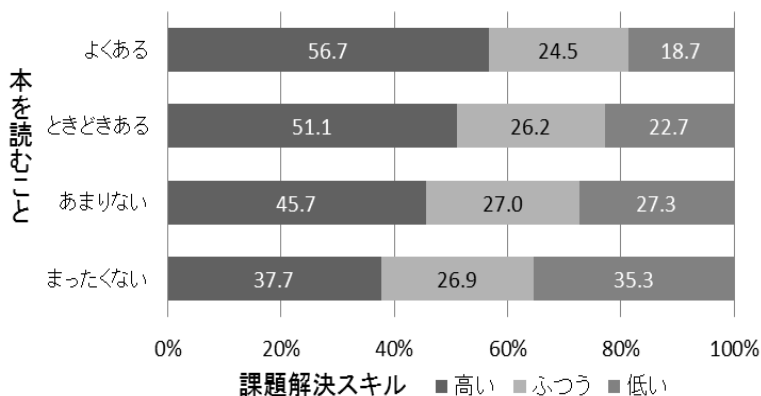
子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

右は、読書と課題解決スキルの関係をグラフにしたものです。ここで本とは、漫画や雑誌以外の本を指します。



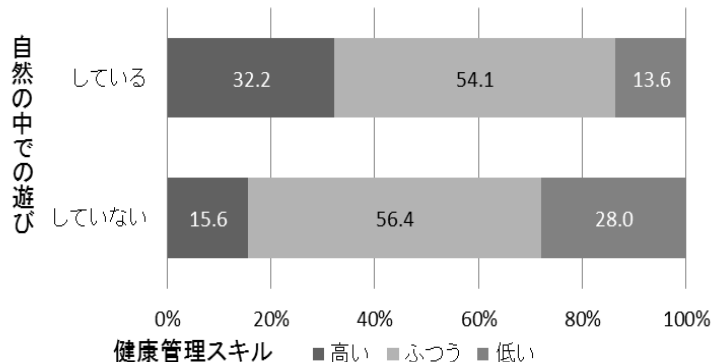
読書をよくする子どもほど、「目標達成に向けて努力する」「トラブルがあったとき、原因を探る」などの課題解決スキルが、読書をまったくしない子どもより高いということがわかります。読書をして様々な情報を手に入れることで、課題に向かう精神が育まれるのではないかと考えられます。

読書と課題解決スキルの関係



国立青少年教育振興機構「青少年教育研究センター紀要第4号」より

日常的な自然の中での遊びと健康管理スキルの関係



国立青少年教育振興機構「青少年教育研究センター紀要第4号」より

左は、日常的な自然の中での遊びと健康管理スキルの関係をグラフにしたものです。日常的に自然体験をよく行っている子どもほど、「毎朝、朝食を食べる」「普段から積極的に体を動かす」などの健康管理スキルが高い傾向が見られます。

また、学年があがるごとにできなくなっている「夜ふかしをしない」も健康管理スキルの一つです。自然の中で思いっきり遊ぶことで、早寝早起きのリズムが整い、夜ふかしもしなくなるのではないかと考えられます。

新しい季節に向かって

もうすぐ春がやってきます。進級・進学、それともなうクラス替えなど…。子どもたちにとっては楽しい気持ちもあれば不安な気持ちもあると思います。

親子で十分に会話をしながら新しい生活に備えましょう。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

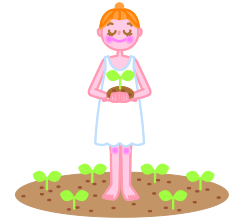
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2018年 7月

今年度のテーマは「生きる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

人生100年時代を生きる子どもたち～総論～

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

今年度のオンリーワンは、「人生100年時代を生きる子どもたち」について3回にわたってお話をしたいと思います。第一回は総論です。

人の寿命が80年くらいと想定されていた時代は、多くの人が「高校や大学を出て就職し、60歳もしくは65歳で引退したら、後の十数年から20年は悠々自適な生活を送ることができる」と考えていました。(人生80年という考え方です)

しかし、ある著書では「人生100年」時代はまもなく到来する(先進国で2007年に生まれた子どものうち、半数以上が100歳以上生きる)と予想しています。

寿命が80年から100年に延びるとなると、これまでの人生のステージを「教育」「仕事」「引退」の3つに分けたライフプランは成り立たなくなります。例えば「仕事」においてもひとつの仕事が続けることは困難となり、キャリアを積むステージ、スキルを身につけるステージ、見聞を広めるステージと言ったように、より細分化していくことになります。家庭生活や人間関係においても人生80年時代の先例は、あまり参考にならなくなります。誰も体験したことのない未知の世界が出現するのです。

このような時代に生きていくことになる子どもたちにより必要になる力は何か。

もちろん長寿社会ですから、「健康維持に関する知識と実践力」は欠くことができませんが、長い人生を生きていく間に起こるであろう様々な変化に対応して、生涯を通じて「変身」していく覚悟と努力と能力が必要になると考えられています。

変身を成功させる要素として「自分を良く知っていること」「新しい人的ネットワークを築けること」「新しい経験に対する開けた姿勢」があげられています。

○自分を知ること

自分は何ができて、何ができないか、やりたいものは何か等々冷静な自己分析能力のことです。

○新しい人的ネットワークの構築

人生のスペンが長くなるにつれて、職場や住居環境の変化が多くなるものと予想されますが、変化のたびごとに、新しい人的ネットワークを築くことができるかどうかはその後の人生に大きな影響を与えることになります。

○新しい経験に開けた姿勢

変化に伴う新しい環境や経験に対して、積極的かつ意欲的に対応していく姿勢があるかどうか、人生100年を生きていく上では大きな意味を持つことになります。

人生「100年」時代を生きることになる子どもたちに、自己分析能力・ネットワークの構築力・新しいことへの意欲的な関わり力を身に付けてもらうための方法はあるのだろうか・・・。

このことについては、次回オンリーワン「各論」でお話ししたいと思います。

おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

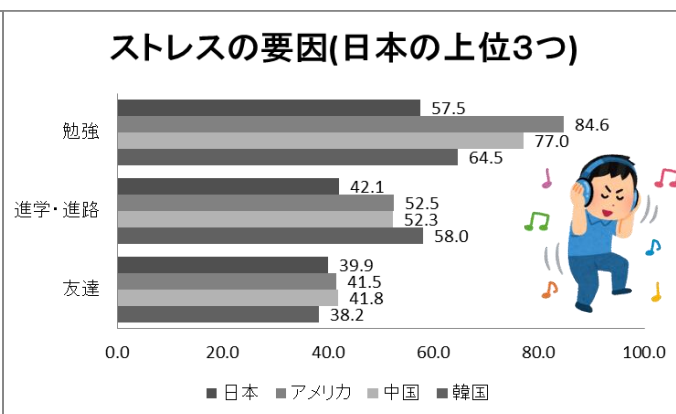
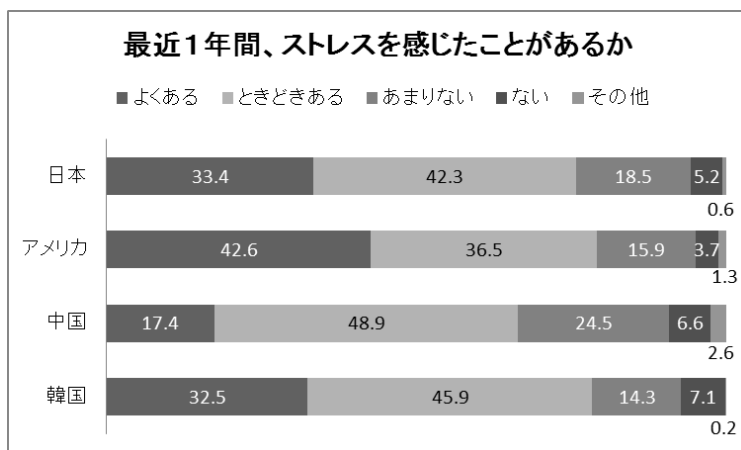


『子どものスマホ・トラブル対応ガイド』安川 雅史／著（ぎょうせい）

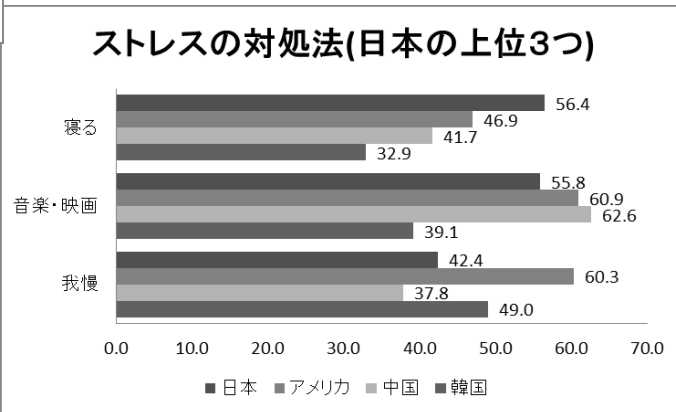
スマホなどインターネットに接続できる機器は、便利な反面、使い方を誤るとトラブルに巻き込まれる危険性があります。この本では、スマホ依存、LINEいじめ、リベンジポルノなどネット社会のトラブルの実際と、予防策を含めた対応法について事例を交えて解説しています。夏休みに向け、親子でスマホ等の使い方を見なおしてみたいはいかがでしょうか。

データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？



国立青少年教育振興機構「高校生の心と体に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」より



上は、心と体の健康に関する意識調査についてです。対象は、日本・アメリカ・中国・韓国の高校生で、高校生が1年間にストレスを感じたことがあるかについてのグラフです。「よくある」と回答した日本の高校生は33.4%と、アメリカに次いで高い結果となりました。

要因としては、「勉強のこと」「進学・進路のこと」「友達のこと」が上位を占めており、特に勉強のことについては、4カ国全ての高校生に共通して最も高い要因でした。

また、ストレスへの対処は、「寝る」「音楽を聴いたり、映画を見る」の比率が高い結果となりました。一方、アメリカの高校生は「我慢する」も高く、日本の高校生のおよそ1.5倍高く回答しています。このことから、日本の高校生は他の対処法を用いて上手にストレスと向き合えているということが分かります。

外遊びでリフレッシュ！

いよいよ夏休みがやってきます。夏には楽しい行事がたくさん！おまつり、花火大会、虫採り、海・プールなどなど…。体調に気をつけながら、暑さに負けずにたくさんの野外活動を楽しんでください。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.lg.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



今年度のテーマは「生きる」です

2018年12月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

人生100年時代を生きる子どもたち～各論②～

能代市・・・指導員 佐藤 清美

今年度は、「人生100年時代を生きる子どもたち」について3回にわたってお話をします。

総論に続き、今回は、人生100年時代を生きることになる子どもたちに必要となる資質をどのようにして身につけるか…について書いてみます。

○自己分析力・長所・短所、得意・不得意、価値観等・

これまで以上に変化の激しい時代に長く生きていく子どもたちにとって、自分がどういう人間であるかを知ることはとても重要です。

この自己分析力を付けるには、子どもの頃からいろいろなことに挑戦し、成功と失敗をたくさん経験していくことが必要です。これまでは、失敗させないように心配りをするが多かったかもしれませんが、子どもに自己分析力を付けようとお考えなら、失敗の体験も重要です。このときのキーワードは「自分で決めて体験する」です。誰かに言われて体験することとは大きな違いがあります。自分で決めたことの結果については自分に責任があり、良くても悪くても受け止めざるをえません。しかし人に言われてやったことについての結果は、言った方に責任があると考えてしまいがちです。この受け止め方の違いが自己分析力を付ける上では大きな差を生みます。



体験した結果を、自分のものとして受け止め、そこから自分についての情報をたくさん得て、積み重ねていくことで、自己分析力は確かなものとなるのです。

保護者として、子どもの意見を尊重しながら、より多くの自己決断と体験を積んでいくことができるような環境づくりに心がけることは、100年時代を生きる子どもにとって何よりのプレゼントとなるでしょう。

○ネットワークの構築力・他世代交流・

同じ職域、職場で退職まで過ごせた時代と違って、一生に2度3度と転職をしながら過ごすことが予想される時代に生きていくには、たくさんの情報とネットワークが不可欠です。新しい職を探すときに最も大事なことは、自分が望む仕事とそれを求めている職場とのマッチングですが、このとき、ネットワークの大きさがものをいいます。幅広いネットワークを持っている人は、必要な情報をより多く得ることができるので、職場選択の幅が広がるということになります。

日頃からいろいろな人との交流を広げ、情報源を持つことがとても重要になります。人的交流を拓げる力の源は経験です。子どもの頃からいろいろな人との交流をたくさんすることを通してその力が増していくと考えられます。ネットワークの構築力と子どもの頃からの人的交流経験は比例します。どんどん交流経験をさせましょう。やがて必要なときに、この経験で培われた資質が力を発揮してくれるでしょう。

次号では「変化への意欲的な・わり力・自・な考え方と・動力」についてと、このシリーズの結論について書くことにします。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『家族で楽しむ25の年中行事』辰巳渚／文 江田ななえ／絵（岩崎書店）

日本で昔から行われている行事や海外から伝えられたものまで、たくさんの年中行事の中から25の行事を掲載しています。子どもの「どうして？」に、行事の意味や手順をわかりやすい言葉で説明するとき便利な一冊です。

さまざまな行事を子どもといっしょに体験することで、季節の移ろいを感じてみませんか？

👍 データでみる家庭教育

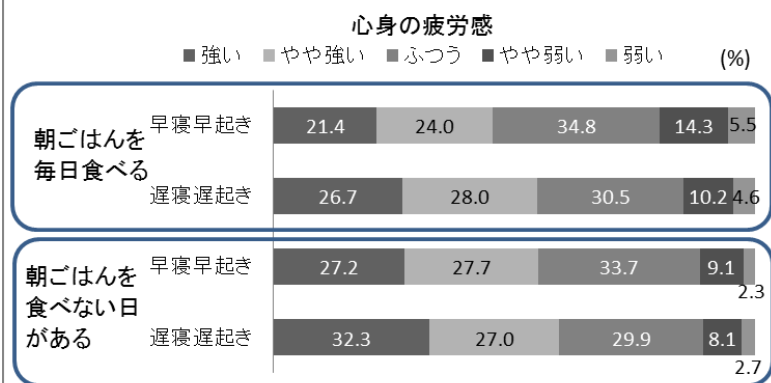
子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

早寝早起きをして、朝ごはんを毎日食べている子どもは、心身の疲労感が少ない傾向にありました。心身の疲労感とは「ものごとに集中できない」などの、日常生活の中で感じる不安定な気分やそれに伴う疲労感をさします。

早寝早起きで朝ごはんを毎日食べる子どもと、遅寝遅起きで朝ごはんを食べない日がある子どもが心身の疲労感が「強い」と回答した割合の差は、およそ1.5倍であるということが分かります。

早寝早起き朝ごはんので疲れ知らずの健康な体をつくりましょう！

就寝・起床・朝食の習慣と心身の疲労感の関係



国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（平成28年度調査）」より

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にとるひとことをご紹介します。

寂しさがあると、スマホにいつちゃうゲームにいつちゃう。だから大事なことは何かというと、スマホやゲームよりも楽しい時間を持つこと。みなさんの中で既にスマホやゲームをやるよりもこれをやっていたほうが楽しいという時間を知っている人？友達と楽しい時間を過ごすほうがいい？それね、おじいちゃんおばあちゃんも、何やっているとき楽しいか聞いたら、友達と話をしているときが楽しいって言っていた。だからね、人間にとって友達と話をするって年齢に関係なく楽しいのかもしれないね。



秋田大学大学院 准教授 佐々木久長氏「メディアと健康～メディアに支配されない生活を目指して～」より

新年に向かって

いつもより家族と過ごす時間が多くなる年末年始。普段なかなかできない体験や、家族とのふれあいを大切に、平成最後の年末年始を楽しんでください。

新しい年も良い1年となるよう願っております。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

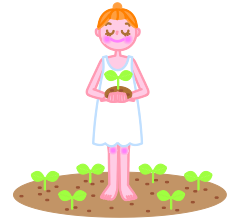
☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.lg.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



今年度のテーマは「生きる」です

2019年3月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

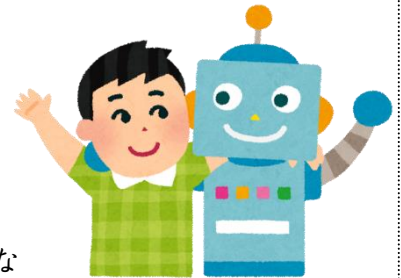
人生100年時代を生きる子どもたち～各論・結び～

能代市社会・・・指導員 佐藤 清美

今年度は、「人生100年時代を生きる子どもたち」について3回にわたってお話をしています。前号では「自己分析力」と「ネットワークの構築力」について書きました。今号では「変化への意欲的な関わり力」について書いてみます。

○変化への意欲的な関わり力（自・な考え方と行動力）

進化論を唱えたダーウィンは「最後に生き残るものは、最も強いものでも、最も賢いものでも無く、最も変化に対応できたものだ。」という考えを示したと言われてはいますが、変化の激しい社会を長く生きることになる子どもたちにとって「変化にどのように関わっていくのか」は大きな課題です。変化に対応するためには、当然ですが、まず変化の兆しに気付かねばなりません。いわゆる「茹でガエル」の理論のように、適応できない人は、徐々に変化する周りの状況に気付かず、茹であがってしまう、つまり手を打つには遅すぎる状況に陥ってしまうわけです。こうならないためには、先入観でものを見ないことが重要です。常に初見であるかのように物事を見ることができる人は、小さなサインにも気付くことができ、適切に対応していくことができるというわけです。



変化に気付く（関わる）力、そして素早く対応できる力を付ける要素は、子どもの頃の経験に潜んでいます。様々なことに失敗を恐れることなく挑戦し、失敗してもそこから学ぶという体験をたくさんすることでこの力は確かなものになっていきます。

挑戦を促すためには、結果にこだわる評価ではなく、経過に注目し、その意欲と努力を評価の対象にすることが重要になります。いろいろなことが初見として表れる子ども時代こそ、変化への対応力の基礎を培う適時といえるのです。

子どもがやりたいと言ったこと、思っていることはできるだけ実現できるように応援（環境を整備）することが保護者や周囲の大人達の大事な役割となります。

○結び

今の子どもたちが、大人が驚くようなテクノロジーの数々を当たり前と考え、自然に受け入れているのを見ても、私たち世代と違った人生を送るのは、現実のように見えます。

長寿化がもたらす恩恵は、煎じ詰めれば「時間」という贈り物だと思えますが、人生が長くなれば目的意識を持って、意欲的に行動し、努力を続けられる人ほど有意義な人生を形作るチャンスを多く持てることとなります。

いずれにしても、結局のところ、自分の人生のシナリオは自分にしか描けないのですから、どのような人生を送るのかは、本人次第なのだということを少しずつ認識させていくことも、とても大切なことだと思います。

おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『中学生のための読解力を伸ばす魔法の本棚』中島克治／(小学館)

読書は読解力の向上や語彙の増加だけでなく、思春期の揺れ動く「心」にも効果的です。中学生になると部活や勉強などで忙しく、本を読む時間が少なくなりがちです。この本では、家庭で親が子どもに本をすすめる時のポイントや国語力のアップにつながるサブノートの作り方、国語力を伸ばすブックリストも掲載されています。親子で読んでみませんか。



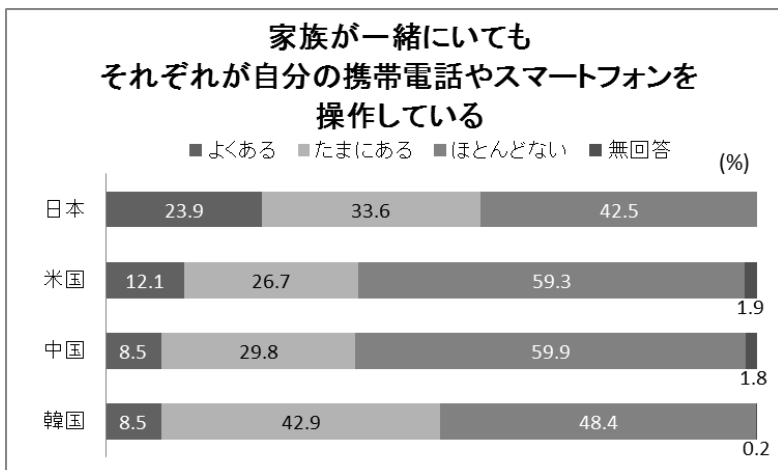
データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

これは、インターネット社会の親子関係に関する調査を日本・アメリカ・中国・韓国で行ったものの比較です。

右のグラフは、各国の小学生が回答したもので、「よくある」「たまにある」と答えた小学生がおよそ6割と、4カ国の中で最も高い数字となっています。

携帯電話やスマートフォンはとても便利ですが、家族の対話もとても大切です。機器から離れて家族の対話を楽しむ時間を増やしてみてはいかがでしょうか。



国立青少年教育振興機構「インターネット社会の親子関係に関する意識調査—日本・米国・中国・韓国の比較—」より

ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、そのなかから心にのこるひとことをご紹介します。

人間の体には37兆個の細胞があります。そのうちの1%が1日に新しくなります。その中で、コピーミスでがん細胞が生まれます。1日にがん細胞はどのくらいできると思いますか？実は5,000個です。すごい多いよね。でも、免疫がやっつけてくれています。だから、例えば運動とかいろんなことをして免疫を高めてください。寝てばかりいると免疫は高まりません。笑うとか、楽しいことをしても免疫が高まるので、がん細胞をやっつけるためにみんなも頑張らないといけません。



秋田大学医学部附属病院 緩和ケアセンター センター長 安藤秀明氏「がん教育」より

困ったときには…

子育てで困ったときや、相談したいことがあるとき、下記の相談先へぜひご連絡ください。親身になってお答えいたします。

能代市子育て支援課 家庭児童相談 (89-2955)

めんchocoてらす (89-2948)

能代市子育て支援センター (能代: 52-8115 / ニツ井: 73-3111)

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL: 0185-73-5285 / FAX: 0185-73-6459 / E-mail: shou-supu@city.noshiro.lg.jp

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



今年度のテーマは「育てる」です

2019年7月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

「子どもたちが生きる未来社会とは？」

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

平成最後の年となった昨年度は、「人生100年時代に生きる子どもたち」と題して、情報提供を行いました。令和元年度の第1号は昨年度の続編として、子どもたちが生きていく10年後20年後の未来社会について思いを巡らしてみたいと思います。

平成から令和となり、新しい時代が幕を開けましたが、はたして令和という時代はどのような世の中になるのでしょうか。自分自身のこととしてももちろん、子育てをしていくうえで、未来の社会がどのようなものなのかを想像することはとても大事な事だと思います。

オックスフォード大学のオズボーン准教授は今後10～20年で現在の仕事の47%が自動化（ロボット化）され、大学生の50%は今はない職業に就いているだろうと述べて、注目されています。彼は、単純作業や答えが分かっている分野の労働はすべてロボットが行うようになるだろうと予想しています。

すでに、駅の自動改札や洗濯機、自動運転の自動車など身の回りは急速に自動化が進んでおり、ますます加速するであろう事は容易に想像できます。

また、社会全体が、外のものへの依存から、内なるものをコントロールする自立と自律が求められる時代へと移行していかれようと言われていています。

例えば、医療の世界を見ると、疾病に対する不安が感染症などの外因性の疾病よりガンなどの内因性のものへと移行し、細菌との闘いから生活習慣との闘いに移行しています。実際に死因も外因性よりも内因性の方が圧倒的に多くなっているそうです。

人々の社会的存在も、組織への帰属から社会的な自立へと変化（自分の潜在能力を新たに見出しつつ常に新しい自分へと変化し続ける存在のあり方を日常的に獲得する事）するだろうと予想されています。

これまでの競争と強いリーダーシップを基本とする社会ではなく、協働と対話による新たな価値の不断の生成が求められる社会の到来。1つの価値が全ての人々に共有されその価値に基づく競争で発展する社会から、多様な価値観が人々を覆い、常にその価値を組み換え、変化し続ける（多様な価値観の衝突→話し合い説得し、受け入れ・・・納得解を生み出す）ことで、活力が生まれ続けるような社会になっていくのではないのでしょうか。

シングルステージ（1つの仕事）からマルチステージ（2つか3つの仕事をかけ算して生きる）へ、人生の多毛作化への移行も進んでいくでしょう。

子どもたちが生きていく未来は、今まで以上に多様化が求められ、変化の激しい社会になると予想されているようです。

未来の社会の有様を想像してみました。参考にいただければ幸いです。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



『ママのアンガーマネジメント 8つのマジック』 / (合同出版)

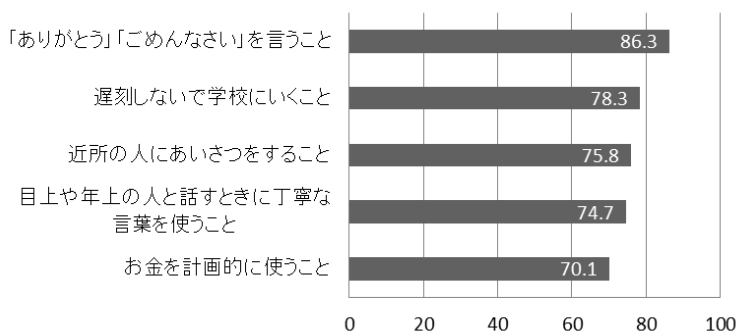
怒り方には、コツがある！自分のタイプを知って、後悔しない怒り方を学んでみませんか。アンガーマネジメントとは、怒りの感情をコントロールする方法のひとつです。子育て中のイライラや怒りの感情に振り回されず、自分の思いを相手に伝えることで自分自身の気持ちも楽になります。

怒りを感じたときに実践できる8つの方法もぜひお試しください。

データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

保護者からみた生活スキルの重要度 （「必ず身につけておくべきである」と答えた割合）

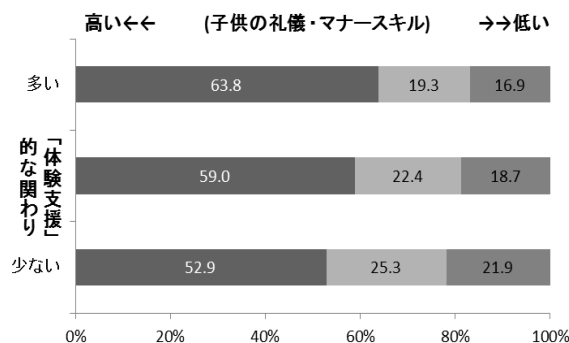


これは、子供の「生活スキル」が、体験活動や生活環境、保護者の子供との関わり等とどのように関係しているかという調査です。保護者が身につけるべきと思っている生活スキルは「礼儀・マナースキル」が多くなっています。

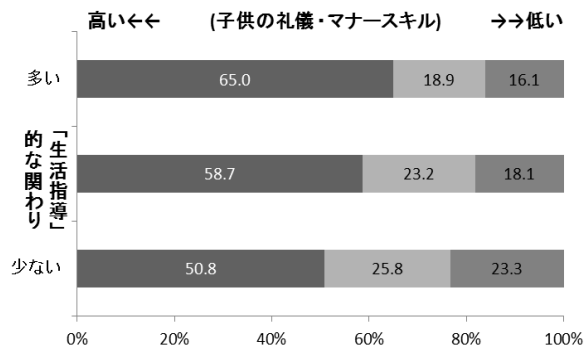
また、保護者が「勉強以外の様々なこと」など体験を積極的にさせている「体験支援」的な関わりをしていたり、「学校のない日にも早寝早起きをさせている」など生活習慣を身につけさせることに力を入れている「生活指導」的な関わりをしているほど、その子供の礼儀・マナースキルが高いという結果が出ています。

そして生活スキルが高いほど、学校生活が充実しており自立に対する意識も高いということもわかりました。子供に生活スキルを身につけさせたいと思ったときは、一緒に様々な体験をしたり、生活習慣を見直してはいかがでしょうか。

保護者の「体験支援」的な関わりと 子供の礼儀・マナースキルの関係



保護者の「生活指導」的な関わりと 子供の礼儀・マナースキルの関係



国立青少年教育振興機構「子供の生活力に関する実態調査」

困ったときには…

子育てで困ったときや、相談したいことがあるとき、下記の相談先へぜひご連絡ください。親身になってお答えいたします。

能代市子育て支援課 家庭児童相談 TEL89-2955

めんchocoてらす TEL89-2948

能代市子育て支援センター TEL 能代：52-8115 / ニツ井：73-3111

能代市教育相談（風の子電話）TEL89-1616

乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.lg.jp